

## 4. 会議記録

### 1) 第3回従来型温泉地再生戦略会議および

#### 第1回藤原町国土施策創発調査検討委員会合同会議 会議記録

日時:2004年12月2日(火) 13:30-16:00

場所:藤原町総合文化会館2階 出席:別紙

#### 1. 開会 (略)

#### 2. あいさつ

##### 1) 国土交通省関東地方整備局建政部長 本東信

- ・歴史と伝統ある温泉観光地は大変非常に厳しい状況。客数減少や単価低下など、経済状況を越えて、社会構造の変化、消費者ニーズの変化も反映。
- ・従来型温泉観光地の再生は、観光立国としての観光振興、都市・地域再生としての地域づくり両方の点からも、国全体に意義がある課題。
- ・国土交通省国土施策創発調査では鬼怒川温泉(藤原町)、伊香保温泉(伊香保町)、石和温泉(笛吹市)の3地区をモデル地区として調査をする。各地域で具体的問題に即して議論し、全国の温泉観光地の観光振興、地域づくりに役立てていけるモデルケースとしていきたい。
- ・地元熱意が全ての基本であり、それを国としてどう応援していかけるかを考えていきたい。

##### 2) 藤原町助役 沼尾進

- ・鬼怒川温泉は日光国立公園の中心に位置して、豊かな自然と温泉、また首都圏から2時間という交通アクセスに恵まれ、温泉観光地として発展をしてきた。
- ・しかし、近年の景気低迷と旅行形態の変化により年々観光客数が減少、平成5年に348万人の観光宿泊数が昨年は238万人と約110万人の減少。本年の1月から10月までの観光客数も約9千人減っている。非常事態であり全町を挙げて再生に取り組んでいく。
- ・合併の話も進んでおり、合併すると面積も1450平方キロ、栃木県の約4分の1という広大な面積になるので、広域交流を含めた検討も必要。

##### 3. 委員会の目的: 藤原町観光課地域再生推進室長 沼尾鬼子造 (詳細略)

##### 4. 委員紹介及び出席者紹介 (詳細略)

##### 5. 委員長選出 (事務局より立教大学観光学部安島博幸氏を推薦、承認)

- ・温泉は非常に人気がある、だが温泉地は非常に状況が厳しい。
- ・特に、昔繁栄した所ほど厳しい状況になっているのが現実。
- ・ニーズの変化に対応して街を変えていくのは大きな力が必要。

#### 6. 議事

##### 1) 藤原町地域再生に関する事業経過説明: 藤原町 沼尾鬼子造 (詳細略、資料参照)

##### 2) 今後の調査検討内容説明: 事務局 八木、磯野 (詳細略、資料)

## 7. 意見交換等

### 1) 調査の進め方

#### (1) 全体・進め方

##### 調査の基本的スタンス：

- ・国土施策創発調査は関東地方整備局(まちづくり)が窓口だが、関東運輸局(観光)との共同調査の位置づけである。まちづくり交付金は基本的にはハード事業だがイベント等ソフトにも使える。
- ・広域交流促進と景観計画に議論を限定する必要はない。結局は、温泉地としての魅力を如何につくっていくかが一番肝心。そのために地元としてやりたい事を幅広く検討して欲しい。
- ・国土施策創発調査はあくまでも手段であり、報告書をまとめる事が目的ではない。目的は動く事、良くなる事であり、目的が達成されれば手段は変わっても良い。成果が出てくるような形に行政が手伝い出来る方が良い。
- ・知事の交代など、政治的な関係で活動がしぼむ事にならぬよう、国にも配慮して欲しい。

##### 実践型の取り組みに向けて：

- ・調査計画がしっくり来ないと思ったら現状の問題点が出てこない。通常は街の強み弱みをワークショップ住民が話し合っまとめ、その先にハードのあり方、かかわる主体等を議論する。限られた時間なのでいきなり核心に迫るようなとりくみをした方が良い。
- ・ゼロはいくつあってもゼロ、ゼロから再生させるのは無理だが、一が始まれば発展していく。今までやってきた、今やっている事について、何が新しく、どれができたなら良いかを考えないと成果は上がらない。調査はそのための裏付け。
- ・調査計画を検証するのではなく、誰がどこまでやるか、誰に向けて、実現のために何が足りなくて、どこを埋めるか、その上でどこを行政が助ければ良いのかという検証の方が早く成果が上がる。
- ・当事者達が主体的にまとめていき、そこを穴埋めするのが行政だと思う。行政から支援をするという話なので成果は上がる、非常に良いきっかけだと思う。

##### 長期・短期の役割分担：

- ・比較的すぐに対応できて即効薬になる事と長期的に攻めていくものがある。長期の方も必要で、その辺をしっかりと見極めておく必要がある。
- ・まちづくりとしてはやはりこれから20〜30年はかかると思う。作業部会とワーキングでは個別課題が沢山出てくると思う。短期間に解決するのは当然無理であると思うが、よく部会で検討したいと思う。それが、地元サポーターがこの街をどうするのかというビジョンを描ききっかけになれば良い。その過程で各省庁、行政機関と良い信頼関係を築いて欲しい。

#### (2) 「広域交流促進」

##### 社会実験・アンケート等について：

- ・短期間なので現況把握は既存の文献等として実践的な調査にしていくべき(特に2-1.(1)〜(3))。
- ・(5)温泉街の回遊促進だけではなく、(6)広域交流という観点でも具体的な社会実証実験をやって、次につながる調査とするのが良い。

- ・福島空港・鬼怒川間の高速バスが11月から運行開始して札幌や伊丹など新しい観光ルートとなる可能性がある。モニター調査をする事も考えられるのではないかな。PRにもなる。
- ・福島空港の話があったが、インバート(?)関係の設定がないようだ。成田空港を入れて日光圈と那須のトライアングルでトランジットの時間を利用した小旅行の推進が検討されているようなので、検討課題として入れて頂ければありがたいと思う。

- ・2-1-(4)アンケート調査について、周遊観光について鬼怒川に来た人だけに聞くのでよいのか、周遊している客に聞く必要があるのではないかな。

→今後作業部会で詳細を詰めていきたい。

- ・アンケートは来た人に聞くのか? 来た人は魅力を感じているので、むしろ来なかった人になぜ来なかったのか聞く事が大事ではないかという気もする。
- ・姉妹都市台東区との行政連携で、鬼怒川・川治にどうい温泉を望んでいるのかアンケートができないか。浅草近辺から鬼怒川は来やすい温泉で、何回も来ている客がいっぱい居る。

#### 各地での事例：

- ・映画祭や音楽祭などのイベント、街の中を無料循環バス(石川県山中温泉)など、色々と事例もあるので、調べると参考になるのではないかな。ただし、その様な事はまちづくり組織をしっかりとしていかなないとなかなか動かない。
- ・伊勢ではまず、自分たちの街がどんなに良いかという自慢大会をやったのだが、それが過ぎると自信過剰に思うので、エージェントの協力を得て東京や大阪で出向き調査を行って、客観的な地域の魅力認識を調査した。雑誌の協力を得てグループインタビューなどもした。そういう意見も重要かなと思う。今回やるやらないは別だが先ほど周遊の話があったので参考にして欲しい。

### (3)「景観計画(まちづくり)」

#### 全体的ビジョン：

- ・まず中心街のまちづくりとして、街の構造を将来的にどうしていきたいのかが重要。
- 町としては17～18年度にかけて駅前整備。次にふれあい橋～旧温泉街方面の遊歩道、くろがね橋と役場方面の遊歩道を考えていきたい。旅館の空き地関係をどうしていくかは検討中。
- 総体的に俯瞰した大きなまちづくりビジョンが無いのが現状。実際の有無は知らないが残念ながら私は知らない。色々と各々の希望はあるが、実現については皆悩んでいるのではないかな。

#### 新・旧市街地の位置づけ：

- ・駅が旧温泉街の前にあった時代と、新たに大きな施設と駅ができた部分、両方とも維持したいと思うが、遊休施設も多く(街が)大きすぎる状態は明らか。
- ・特に旧温泉街をどのようにしていきたいのか、景観の前に都市計画、まちづくりとしてビジョンを合意する必要。
- ・インフラと街はセット。駅から離れたところは通常衰退する。旧温泉街を街として活性化していく事が

重要であれば、アクセシビリティを高めるインフラなどの対策が必要。

「歩いて楽しい」を目指すために：

- ・1極では人は歩かない。まず鉄道なり車でこの街に来るときに、入ってくる場所が1つでは人が街の方に来るのは難しい、通常商店街を整備する時は2極。
- ・歩いて楽しいという事ではやはり自然景観がウリ。水辺を歩ける様な事が重視されるのではないかな。
- ・2-2景観形成において、ニーズ把握のための手続きは必要ないのか。
- 空き店舗活用の社会実験と併せてやっていきたい。
- ・ニーズ調査も必要だが、特に街を歩くという事では、単に街がきれいという事ではなくて、ある程度アクティビティがあって楽しめる事と一緒に検討する方が良い。

その他（遊休施設他）：

- ・遊休施設の活用に向けて、景観調査で遊休施設の分布、状態を調査してほしい。
- ・伊勢志摩では行政だけにまかせず市民も入って駅前景観を直そうとモデル的な試みを行っている。

## 2) 地元の具体の取り組みについて

### (1) 鬼怒川温泉

取り組み紹介：

- ・アジア方面でPR的な活動(中国、台湾、香港、韓国等観光協会、鬼怒川・川治旅館組合)。
- ・福島空港でも鬼怒川・川治温泉のPRなど(観光協会、鬼怒川・川治旅館組合)。
- ・昨年「歩いて楽しいまちづくり実行委員会」を設立。鬼怒川・川治温泉での集客、客に喜んでもらえるか、若い世代で活動を実践中(鬼怒川・川治温泉旅館組合青年部、藤原町の明日を語る会、日光地区商工会観光委員会)。
- ・手づくりアートを並べる(本町通自治会)。
- ・7-8月の8日間、ふれあい橋でビアガーデンを開催。手弁当で延べ180人の若者が手伝って盛況だった。100日間頑張るべきだと言われたが大変な動員と予算が発生する。(旅館組合青年部と共同)

取り組み方針：

- ・慶應大学の島田晴雄氏(観光立国懇談会委員)の講演会では、ホテルから飲食関係をアウトソーシングして外に客を出す、昼間の客を楽しませるプログラムを充実させる、という鬼怒川温泉再生に向けた2つの方法、その2つを膨らましてイベントなどで再生するのが近道という話があった。

規制緩和への要望（橋の利用、白バスの活用）：

- ・抜本的には規制緩和を念頭にあげて、もっと自由な範囲でできる形を作ってもらいたい。それが客にとってのサービス促進となる。
- ・ビアガーデンの場合、労力は何とかなるとしても、一番のネックは警察(橋の上で何かをやる事)と国交省(建造物をつくるなど)の許認可である。イベント特区を使って許認可問題をクリアできれば、再生に向けて動くのではないかな。
- ・ホテルでは白バスを持っているが許可は従業員の送迎となっている。客のためにお金をもらわないで送迎する事は、利益目的ではなくて純粋なサービスでも違法として規制される。青ナンバーをとる

のは経済的に無理である。

- ・駅までの送迎はダイヤルバスがあるが、せめてホテルから商店街に乗せていく、夜にクワガタとりにつれていくなど、その様な部分で白バスの可能性を認められないか。この地域は長細いので、端から端までは歩かせられない。昼間のメニューをつくっても足回りが悪い。
- 有償で不特定多数の客を乗せて運行するのが青ナンバー（営業用／運送事業）、それ以外が白ナンバー（自家用）。14年2月からかなり大幅な制度緩和を行っている。基本的な枠組みは崩せないまでも、話を聞いてできる限り対応をしていきたい。
- 観光とは違う安全関係を目的とした基準となっている事は理解していただきたい。文脈は承知しており、全国一律の基準では許可できないが、地域によって差異はあり得るので直した方が良いという議論は行っている。そこを理解の上でまた相談して欲しい。

#### 車来客への対応：

- ・車の客が多いが、休もうと思ってもみな有料である、竜王峡が人気なのは無料だから。道の駅などオープンな施設を提案しているが広域合併の話に遮られる。役所が壁をつくっているのではないか。

#### （2）川治温泉

- ・アートウォークとして、6年前から11～12月頃のピーク時に、旅館のロビーをギャラリーにしたてて絵画や益子焼を展示。商店街や飲食店などと連携して空店舗もギャラリー化。
- ・まだ世に出ていない益子焼作家に着目し、川治で陶芸をやり客も楽しむ、ギャラリーもあるというシステムを組めないかと考えている。
- ・客にも参加してもらおうという点では、絵手紙コンテストを行ってギャラリーで展示をしている。
- 見るものがないのではまちあるきの目的がないので、歩かせるという点では面白い。旅館には随分と宝物の美術品があるのではないか。
- ・薬師の湯という共同湯があるが、情報発信が下手なせいか利用者が少ない。今までは自治会が運営していたが、今度は中間法人薬師の湯管理協会の運営とした（旅館組合、商店街、地元自治会）
- ・10軒中9軒の旅館の温泉を1時から4時まで解放。当初は無料であったが組合負担が大き過ぎ、黒川温泉も参考に有料化（組合が多少お金を出す）。800円で宿泊以外の3軒の旅館をめぐる。
- ・薬師の湯の日帰り湯めぐり手形は、タオル付きで1200円で、旅館2軒や休憩施設の利用などができる。車での往来は禁止して、川治のまちなかを歩く事を大前提としている。

#### （3）今後の地元の取り組みに向けて 自分たちで取り組む（伊勢志摩事例）：

- ・リクルートじゃらん調査によると、宿に寄せられる三大クレームは第1位が接客態度、第2位が食事、第3位が清掃管理である。落ち込んでいる地域には結構それがある。
- ・それが顕著に表れた伊勢志摩では、地元9人（鳥羽水族館、赤福、青年会議所理事長など）とプロ（藤崎氏）が入って再生プロジェクトとして月2回、来年で丸4年、徹底議論を行ってきた。

- ・「自ら考え、自ら行動し、自ら責任を持つ」事が3原則になっている。(株)伊勢志摩ツアーズという旅行会社やNPO法人バリアフリーセンターの結成、伊勢神宮を案内するなどでこの公募などを自分たちで行った。行政はコーディネーターであった。
- ・少しずつだが成果が上がってきた。やはり継続が非常に重要。
- ・「よそのもの、わかもの、ばかもの」が重要。地元の人に信念を持って行動しているひとを「ばかもの」、行動しないとやはり意味がないので「わかもの」、誰に向けという事で「よそのもの」と使えば良いと思う。

#### ターゲットをしぼる：

- ・お題目は幾らでもできる。実現できた所がすごいので、本当に腹をくくらないと再生は難しい。観光立県宣言などライバルは多い、
- ・地元の人達がこの街をどうしたいか、その時に誰が来て欲しいかというターゲットを考えると良い。

### 3) その他

#### (1) 鬼怒川温泉の社会的評価・まちのイメージ

- ・「魅力の温泉66、2003.11、日本経済新聞社」で全国の比較的大きな温泉地の評価を行った。一般的な魅力や弱点がわかると思う。鬼怒川温泉は66中の53位であった。
- ・評価の悪い点を見ると、下記の点がおそらく評価に反映している。
  - 共同湯がない(まちを歩くための基本的な要素)。
  - 文化施設的なものがない(湯布院などに比べてそれが欠如)。
  - 目立つイベントや催しが無い
  - 料理に特色がある宿泊施設がない
  - 情緒がある宿泊施設がない
- ・学識経験者、旅行代理店、旅館経営者の評価はほぼ同じ。旅行業者も推薦しないという事は問題。
- ・寂れた感じや歓楽的な要素などマイナス要素がある所には人が来ない。プラスの要素を付け加える事も推薦には必要だが、それよりもマイナスの要素を取り除く事が必要ではないか。
- ・昔は旧市街地も活気があったと聞く。大きなホテルを建てて宿泊、入浴、食事、宴会などが外に出ないでも完結してしまうため、街が寂れてしまうという事はあるのではないか。
- ・共同湯や文化施設をつくるという事もあるが、もう少し店が並んでいる通りがあると良い。
- ・ホテルと商店との良いアウトソーシング関係が必定である。温泉街が元気なところでは、あえてホテルの中に施設をつくらずに街で完備する方針でやってきた地域もある。

#### (2) PR

- ・たまたまりピーターの家族旅行者に話を伺った。昔に比べて湯の量が減っている、旅館が寂れているという事は、専門家だけでなく一般の人も同様に感じているようだ。
- ・目玉が無くなってきたとも言っていた。目玉をPRできるという事を視野に入れながら進めて欲しい。

報告書発表時などチャンスはある。

- ・2006年春の東武・JRの乗り入れは、特に首都圏から電車で来る客にPRできるチャンスである。
- ・鬼怒川温泉駅前はレストランなどの個性が無く、みやげも何を買えば良いかという感じである。
- ・温泉表示の問題がたまたま世の中に出ている。湯をPRするという点では難しいかもしれないが、浴槽をきれいにする3原則の様なもの、どんなお湯なのかという事が考えられるのではないか。
- ・PRは最後手段なので何でもかんでもPRする必要もない。本当に良い所はクチコミで伝わる、噂になれば宣伝もしてくれる。

### (3) その他

#### ヒーリング：

- ・伊豆には杉本練堂さんというヒーリングを7～8年前から訴えてきた人が居る。当時は非常に浮いていたが、今は伊豆半島全体の温泉療法の代表となっている。

#### 伊香保町の進め方：

- ・伊香保町の第一回会議では、最初に調査の宣言をし、目的の場所や協力の宣言式をやって、出席者の知恵をもらう方式で進めた。
- ・全ての温泉に町に協力をしてもらう事、共同湯としての温泉施設、民間の土地を町と一緒にやる共同公園、景観づくりについて、また、広域観光で連携をとるという事を宣言した。

以上、

次回開催日：1月18日（火）13：30～ 藤原町総合文化会館2階にて

## 2) 藤原町国土施策創発調査第1回広域交流作業部会第1回景観計画作業部会合同会議

日時:2005年1月12日(水) 14:00～

場所:藤原町総合文化会館

出席:別紙

### 1. 開会

作道藤原町観光課長

- ・本日は年の初めの忙しい中、悪天候の中ありがとうございます。ただいまより藤原町国土施策創発調査広域交流作業部会、景観計画作業部会合同会議を行います。

### 2. あいさつ

堀川藤原町収入役

- ・本日はお忙しい中出席ありがとうございます。本町の地域再生については色々な推進体制をとっているが、今日は広域交流作業部会と景観計画作業部会の合同部会である。確かな地域再生を目指して実りある会議としたい、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

### 3. 作業部会の目的

- ・資料0参照、詳細略

### 4. 部員紹介

- ・略

### 5. 部会長選出

事務局案として以下2名を推薦、出席者の了承を得て部会長を選出。

- ・広域交流作業部会 高橋幸男氏
- ・景観計画作業部会 筒井 巖氏

### 6. 議事

#### 1) 調査検討内容について

#### 2) 第2回委員会の提出資料について

- ・各作業部会でご指導、ご意見をふまえて委員会に諮る資料を作成していきたい。
- ・第1回委員会の意見に従い、作業としては部会の区分にこだわらず実体的な作業を行っていく。(詳細略、議論は文末に記載)

### 7. その他

略

### 8. 閉会

略

※議論内容は次頁以降参照



## (議論概要)

### 資料1：作業企画について

#### (1) 企画内容

・「福祉・癒し」は耳に心地良いが、「魅力の温泉66」の項目別評価を見ると鬼怒川温泉は「温泉の質」で最下位、鬼怒川の大規模なキャパシティと対極なイメージがある。

→短期的にはまず集客、中期的には広域観光、長期的に福祉観光と段階的に考えていきたい。福祉については現時点で明確なものはないが、意見を聞きながら形をつくっていきたい。

#### (2) スケジュール

・時間が短い中で部会はあと実質1回しか無い、厳密に考えて調査の実行が本当に可能か。

→各々の作業部会で補足も必要かと思う。より細かい日程が入ったスケジュールを確定する。

#### (3) その他

・都市再生モデル調査とはどのようなものか。

→国土施策創発調査と並行して動いており、2月中に「福祉・癒し観光」社会実験を行う。個人旅行における新しい観光のあり方に特化して検討を行う。

・福祉にはお金が稼げないボランティア的な側面もあり、国においても予算的な課題を抱えている。町としてどのような福祉を考えるか、高齢者などどのような目的で来るだろうか、

→今年度の都市再生モデル調査でも方向性を検討して示していきたい。

### 資料2：アンケート・福島空港ツアーについて

#### (1) 資料2-2：宿泊客アンケート

##### アンケート内容：

・調査としてこれらの情報の必要性はわかるが、ボールペン1本の謝礼に対して6ページものアンケートは、実施側・回答側(保養目的の観光客)の負担が高すぎる。回答の選択肢を減らす、景品のランクを上げるなどの対応を考えて欲しい。

・旅行会社でも宿泊客にアンケートを行うがA4一枚の内容で回収率は50%未満である。ボリュームが大きすぎると今度は回収率が悪化する。

→調査としてはこれらの情報を得たいと考えているが、集計側と実施側では意識のずれもあるであろう。意見に配慮して項目を整理した改案を委員会に提示する。

##### 配布および回収：

・回収率はどれくらいをめざしているか？

→6割(300票)程度であれば有意な回答と考えている。

・旅館の宿泊客は多いので500票(室)は2-3日で済むだろう。1000票程度配布するなど多くの意見を集めた方が良いのではないか。

→サンプル数は500-1000が主流の単位となっている。

##### PRとの一体性：

・アンケートで「福祉・癒し」と言って解るのはこの会場に居る人だけかもしれない。パンフやポスターな

ど先にPRがある事で回答者の動機付けも変わってくるだろう。PRのあり方も含めて総合的に考えていく必要があると思う。

- ・単にアンケートを渡したのでは答えてもらえないが、旅館経営者などが説明とともに渡したのであれば、かなり協力してもらえないのではないか。

#### アンケート対象：

- ・鬼怒川を全く知らないような地域にも聞いて欲しい。
  - ・対象年齢についてどう考えるか、団体客・家族・老人など偏り無いサンプルが欲しい。
- 宿泊客アンケートの場合、対象層は来た人次第となる。東京アンケートではある程度均衡になるよう配慮したい。
- 聞き方で若い人との家族、高齢者との家族など対象層を明確化する工夫は考えられる。

#### その他：

- ・鬼怒川温泉自身の問題であり、地元の我々がやる事が大事なのではないかと。商店としても今後の活力のためにもアンケートを利用したい。

#### (議論整理)

#### ○回収率を上げるための回答しやすさ

→項目の集約整理、項目毎に回答ターゲットを分けるなど方策を検討する。

#### ○PRと連動して鬼怒川再生の活動として盛り上げるべき

→リーフレット作成等で工夫する。活動としての盛り上げは地元にご協力頂きたい。

#### ○年齢層等を平均的にする工夫

→多少無作為でないと回収が難しい側面もあり、フェイスシートの中で工夫する。

#### (2) 資料2-4：福島空港ツアー

- ・福島空港ツアーのサンプル数はどう考えているか。
- エージェントも含めて50名程度で考えているが、エージェントとの議論もこれからなので、実現性や経費なども含めて検討したい。
- ・JTbでは昨年にエージェント対象ツアーを実施したが、数ヶ月の準備でやっと30人程度が集まった。実施まで1ヶ月を切った設定ではエージェントは難しい。一般客への告知も時間と経費がかかり、2月中旬の実施は無理ではないか。
- 関東運輸局のモニターリストから募集を行いたいと考えており、通常の一般客とは違う面がある。エージェントの方については委員会後に具体的に相談をさせて欲しい。

#### (3) 資料2-5：空き店舗活用社会実験

- ・空き店舗活用の中のアンケートサンプル数はどう考えているか。
- 100〜200程度を考えている。

#### 資料3：まちづくりについて

#### (1) 資料3-1：鬼怒川温泉再生の方向性（試案）

- ・現案では広域交流という事では、弱いのではないかと感じる。
- 今後の検討の中で掘り下げていく。

- ・「魅力の温泉66」における53番目という評価結果には愕然とした。何十年も経済成長に頼って温泉として力が足りなかった。何が不足しているのか必要なのか。何を補えば客が来るのか。アンケートも必要だがこの分析データが参考となるのではないか。

#### (2) 資料3-2：まちづくりグランドデザイン

- ・地元でオーソライズされている地区全体のプランが無いという話が説明にあったが、スケールの大小はともかく、今までに何度も絵は描かれている。地元へ浸透していないという意味であれば、それが浸透しない原因、浸透させるための方策等を議論する方が良いのではないか。
  - ・残念ながら鬼怒川温泉に「景観」というものがあるのだろうか。景観と環境整備は少し違い、景観とは「あそこの温泉はこんな事を行っているから見に行こう」というものと思う。ロープウェイ付近に旅館青年部が桜の苗木を植えているが、反対側は紅葉を植えて秋の名所にしてはどうか。公園側は旅館も少なく対岸の商店街の売り上げも厳しいと聞かすが、その様な自然景観をつくれないうか。
- 景観検討作業部会で検討したい。

#### その他

- ・部会としての役割は何か、アンケート実施に対する協力なのか？
- 委員会に提案していく前の議論をしていたく事が一番の役割である。社会実験やアンケートの結果をフィードバックして実質的な議論をしていきたい。実際の作業に協力を頂く事もあると思うが、町と調整して事務レベルで詰めさせて頂く。
- ・景観やまちづくりについては、アンケートや社会実験などは行わないという事だが、今後どのように作業を行っていくか。
- 空き店舗活用社会実験については、交流と街並み誘導両方の側面がある。ワークショップ的に地元と議論していきたいと思っている。本日夜に第1回を開催する。

以上、

### 3) 第2回藤原町国土施策創発調査検討委員会 会議記録

日時:2005年1月17日(月) 14:00～

場所:藤原町役場

出席:別紙

#### 1. 開会

##### 1) 作道観光課長

(略)

##### 2) 安島委員長

・広域交流部会・景観計画作業部会で検討案ができてきているようだ。今回は重要な会議となるので忌憚のない議論として成果を上げたい。

##### 3) 作道観光課長

・資料確認(詳細略、座席表修正「広報」→「広域」)

##### 4) 宇都宮大学陣内教授

・本会議より委員として参加、自己紹介。

#### 2. 資料説明

udc八木、都市計画設計研究所磯野・平井(詳細略)

##### 資料1 作業企画改定案

- ・前回作業企画案は広域交流、景観計画の枠組みを前提としていたが実体的な流れに改訂。
- ・福島空港利用ツアー、潜在的顧客へのアンケート等を追加。

##### 資料2 フィールドワークの実施に向けて

- ・地元アンケート、宿泊客へのアンケート、潜在的顧客へのアンケート、福島空港利用ツアー、空き店舗を活用した温泉街の回遊促進の社会実験の実施企画を提示。

##### 資料3 施策の立案に向けて

- ・鬼怒川温泉再生の方向(試案)
- ・まちづくりグランドデザイン(試案)

#### 3. 地元の取り組み状況の紹介

##### 1) 筒井(藤原の明日を語る会)

- ・教育委員会の後押しでできた団体であり、まず町内小中学生・保護者へのアンケートを行った(500～600票)。この町が好きか、この町をどう思うかを訪ね、町が汚い、ゴミが多いなどの問題が出た。町の教育文化祭で「この町を好きになりましょう」というプレゼンテーションを行って、町長等を交えて

子供達と一緒にゴミ拾いを行った。

- ・藤原町は外に向けての個人商店や飲食店のインフォメーション機能が弱い。日光地区商工会議所青年部の依頼に協力して、飲食店の情報をデータベースを作成してウェブ上で情報発信を行っている。Yahooで検索すると「鬼怒川の食事どころ」でトップになるまでになった。
- ・くろがね橋祭り、川治祭り等、町内各種イベントへの出展や手伝いなどを行っている。
- ・ふれあい橋で夏の8日間ビアガーデンを行った。旅館組合青年部との共同で、アサヒビール協賛、町協力などを得て実現した。参加者は26名で各自から参加費5000円を徴収した。4日間で180人延べのボランティアが参加した。
- ・観光協会に補助金10万円をいただいた。川治青年振興会からお借りテーブル、椅子などを借りて、音響関係は自前であった。許認可が難しく、町観光課にお世話をかけた。
- ・飲み物だけで80万円ほどの売上があった。食べ物は飲食店に協力してもらい出前に対応した。収益から10万円を社会福祉協議会に寄付し、参加費については返還を行った。
- ・埼玉県深谷市にぎわい工房、山形県小野川温泉、まほろばの里高島町など先進地への視察、新潟中越地震への救援物資輸送、義捐金なども行っている。
- ・目指しているのは、各種団体、グループとの関係であり、鬼怒川・川治温泉旅館組合青年部、日光地区商工会議所青年部、川治青年振興会、NPO法人日光BBC、藤原町まちづくりプランナー講座、地元学校PTA、今市〇〇など、各種団体と関係をとっている。

## 2) 高橋（地域再生マネージャーサポーター）

- ・グループではなくて地域再生マネージャーサポーターとして、藤原町のブランドづくりという事で町の強み弱みの勉強会を開催し、明後日に具体的な強み弱みを整理する。創発調査アンケートでも強み弱みを聞いてもらえるという事で、マネージャー事業とのリンクができてきたように感じる。

## 3) 小野（歩いて楽しいまちづくり実行委員会：昨年に旅館組合青年部が主体となって結成）

- ・オリジナル浴衣の作製、町民と客がふれあうためのシート(ベンチ)の設置を行った。
- ・四季の花木育成プランとして10カ年計画でサクラやモミジ、ツツジなどを植えていこうとしている。また、フラワーコンテスト(昨年第1回)として、各旅館に花苗を配って花壇を作成してもらってコンテストを行う。花巡り、湯巡りのまちを基本に事業を起こしている。
- ・旅館組合青年部では、今市のシイタケを利用した料理を開発して、客に提供している。
- ・青年部が主体となってツインリンクもてぎと提携してインディ2004で広報活動を行っている。ツインリンクの花火大会でも旅館協同組合と観光協会の名前を入れて宣伝広報活動を行っている。
- ・麒麟ビールと連係して、ピュアブルー発売1周年キャンペーンでは22の旅館ホテルに宿泊券を提供してもらい、県内の各飲食店400店舗にポスター等で宣伝を行った。
- ・最近では、麒麟淡麗鬼怒川デザイン缶として、鬼怒川の思い出を主題としたパッケージをデザイン

ー4名でコンペを行い各旅館で販売した。6000ケースは完売で好評であった。その際にも幾つかのホテルで宿泊券など、県民応募作品に対する賞などで宿泊券やテーマパークを送り、地産地消を進めていこうとしている。

- ・**ティーファア(?)の方も**青年部が窓口として色々話を進めていこうとしている。藤原町の明日を語る会などとも連携協力してイベント等を行っている。

## 4. 討議

### 1) 作業企画改定案について：資料1

- ・ターゲットという事では、癒しと健康に加えて「美しくなる」というテーマが重要ではないか。高齢者はお年寄り扱いされるのを嫌う。癒しと健康を出し過ぎると嫌われるおそれもある。
- ・宇都宮では餃子でまちおこしをしているが、県内のどことつながるかという議論をした時に必ず出てくるのは鬼怒川温泉である。そういうつながりも考え得るのではないか。

### 2) フィールドワークの実施に向けて：資料2

#### (1) 宿泊客アンケート

- ・実施が可能で重要性があれば、客がどういう情報とモチベーションで来たかを聞くと良い。前泊地や今後の立ち寄りポイントなども聞いてはいかがか。
- 周遊前後の関係については日光圏のパーソントリップが存在する、情報収集については全国的なものなどの調査などもあると思うので考慮したい。
- ・宿泊客アンケートの分量は前回案の1/3となったが、最後に謝礼文を入れておくべき。(筒井)
- 実際のアンケート票はもっと読みやすくし、謝礼も入れる。(磯野)

#### (2) 福島空港利用ツアー

##### ツアーの魅力付け

- ・「福島空港利用ツアー」の魅力はなにか？空港を使える事が魅力という事か？
- そうである、新しいルートができたという事を確認したい。
- ・空港を使うことだけを目的に来る人は少ない。リピーターを呼び込むためには何が利用者にとって嬉しいかを考え、鬼怒川の良さを盛り込んだ魅力付けが必要。これだけではマスコミの話題にはならない。旅行エージェントにも聞くと良いだろう。稚内で首都圏から来客を呼ぼうとした時は予算が50万円しかなかった。新聞広告には金額が少ないが、5000円のカニ100人分というツアーが評判になった。例えばそういうしくみが必要。
- その様に検討したい。

##### バス運行社会実験について

- ・福島空港高速バス社会実験はどのようなものか、利用状況はどうか？(安島)
- もともとは、鬼怒川に限らず地方空港が利用されない、公共交通が使われていないという状況に対して、補助金で社会実験を後押ししているものである。実験自体は別の目的であるが、広域連携と

いう意義から、新しい利用ルートの可能性があるので関係するという話になっている。

→利用実績は苦しく、1便あたり1人乗るかという日もある。土日運行のみで2泊3日では使いにくい、なかなか周知されていないなどが原因である。大阪からの利用が一番多いのだが、新幹線で来て東京を見てから鬼怒川に來たい人も居るので、福島空港だけを利用する事が少ない。ツアー社会実験で新たな問題点が見つければ指摘して欲しい。

・インバウンド(国外からの来客)も関係あるのか。

→上海や韓国を視野に入れて週3便ほど走らせているが、定期便ではないので難しい面もある。

## 2 次交通の必要性

・2次交通が厳しい。JR駅などでの乗り捨てレンタカーシステム、乗り合いタクシーなどは効果的ではないか。能登空港では小松空港とのレンタカー乗り捨て無料やふるさとタクシーなどが有効のようだ。空港にかかわらずレンタカー活用は周辺とのネットワークに有効と思う。(安島)

→まさにライバルはマイカーだと思う。東武ダイヤルバスとのリンケージや若干の割引はやっているのだが、レンタカーなどはまだなので検討してみたい。

### (3) 空き店舗活用社会実験

#### 既存交通の活用

・社会実験の地区内交流では、人を呼び込む交通も必要となってくると思う。ダイヤルバスやタクシーなど、既存の交通の活用により本町・旭町に客を呼び込む事ができないか。

→利用客アンケートなどでまず客に聞いて交通手段なども検討して、中間段階で検討したい。

→社会実験としては、具体的な動きの中で変えていく実証が大事だと思う。

#### まちづくりの語り部育成

・歩く魅力の必要性はまさにその通りだが、社会実験だけでは歩かないと思う。石川県ではまちづくりのプロセスを熱く語る語り部を育成している。温泉や文化、食べ物が大好きで、一緒にそぞろ歩きながら案内してくれるような人ができれば良いと感じた。

#### 他の事業・主体との連携

・旭町ふれあい広場でNPO法人日光BBCが、2月～3月に手作りの物品販売などを企画している。再生マネージャーは2月11日～3月5日に、インターネットを使った宝探しを提案しており、本町や旭町もルートに入っている。PRやイベントに組み合わせれば、より効果的なアンケートや実験ができるが再生マネージャーとの関係がとれていないように思える。

→日程やタイアップなどはこれからのワークショップで詰めて、再生マネージャーの企画とも合わせて軌道修正はしていきたいと思う。一番大切なのは地元の人がやる気になる事であり、無理をさせないという条件の中で、アイデアなどを提供していく。

→空き店舗活用では事務局もワークショップで地元の団体と話をしており、良い意見が出てきている。本町商店街の手作り行灯も良い資源であり、竹や芸妓の古着物のリサイクル、住民参加などの側面も持つ。行灯推進に対する各店の共通認識もある。

・両方の調査にかかわる町はどうか？一緒のイベントとして参加してもらいもできたと思う。情報を流さないのは不親切であり、もったいない。

→空き店舗活用については、本町活性化委員会でやってもらえる事で話が進んでいたが、別件の地域イベントの話が出て地元で参加を希望しており、空き店舗活用が少し手薄になった状況もあったが、15日のオープンが迫っていたのでとりあえずオープンした。

→NPO団体の件は、鬼怒川にも関係者が居たために1ヶ月間の手作り作品展示販売を行う事となった。旅館、町内などに周知して欲しいというすりあわせもしているが、昨日の今日の話なので、PRは色々な所に情報提供して相乗効果を上げていきたい。

→地域再生マネージャーには、業務委託時にすりあわせをして創発調査にも関わってほしいとお願いをしている。会議等には参加できないが、会議状況を踏まえてマネージャー事業を展開していきたいとの事で情報提供も行っている。色々な事業が輻輳して同時進行している。

・まだ実験期間はあるので、企画の修正などとの関係を密にして色々な実験を進めて欲しい。

#### 利用者アンケート

・空き店舗アンケートについて、どんな店舗活用が良いか、どこに泊まっている人が来ているのかを聞いたらどうか、余り項目が多くなるのも問題かもしれないが。

### 3) 施策の立案に向けて：資料3

#### (1) 鬼怒川温泉の魅力の再生に向けて 弱みの修正と強みの創出

・ギャラリーやゲームだけでは人が来ないのではないか。旅館の人を引っ張り出すためにはもっと街を魅力的にする何かが必要。鬼怒川の評価が低い点は明確であり、外湯が無い、料理も弱い、情緒ある宿泊施設も弱い、文化施設が無い、イベントや催しも低い、これら人を引っ張り出す所が弱い。

・例えば、鬼怒川沿いを歩くことができないか、ロープウェイを活用して山を登る方法は無いのか。旅館のロビーにギャラリーをつくって解放するなど道路沿いの旅館が参加してやれる事はないか。黒川温泉のように内湯を解放、コンサートなどのイベントを街なかを持ってきてそれに合わせた実験的な食べ物開発や露店など、より強力に人を引っ張り出す事が必要ではないか。

・温泉の評価にはプラス要素とマイナス要素があるが、プラスをのばすのが良いのか、マイナスをプラスに転じるのか、両方必要なのか。

→全部良いに越したことはないが、無ければ仕方がないが、まずマイナスイメージを平均まで回復しないとイケない。その上で鬼怒川にしかないという所をつくって得点を稼がなくてはイケない。

→旅の一つの動機は、自分の行ってきた所について語れるという事。旅先を選ぶ時に「なぜあの様なところに行ったのか」と言われぬようにマイナスを消さなければイケない。「こういう体験をしてきた」と語れるようにしなければイケない。点数だけで語れない所はあるものの、高く評価されている所は90点などの項目があるが、鬼怒川は非常に低い、

#### (2) まちづくりランドデザイン

##### 廃旅館対策

・「緑+施設ゾーン」におけるくろがね橋周辺の廃旅館は、宿泊客やエージェントからも問題となって



- いる。緑化や小規模な設備にするのはお金がかかるが、その出所はどう考えているか。
- 今のところはまだあるべき論であり、今後検討していきたい。
- ・他の地域では手がけたところもあると思う、調べてみてはどうか。
  - ・平成17年からまちまるごと再生事業(仮称)ができる。公共団体が主体となるまちづくり交付金に対して、民間の組合などの負担分について民都機構が融資をする制度である。事業主体ができれば、資金的な支援体制は国にできているので活用して欲しい。

#### 計画フレーム

- ・まちづくりランドデザイン、年間800万人を一体で捉えるのは難しいという事はわかるが、そもそも800万人を今後前提とするのか、つらい事とは思いますが重要ではないか。

#### その他(景観・散策路)

- ・水際に散策路がないという話だが、まちづくり交付金の中で散策路の確保もぜひ検討して欲しい。バリアフリーに難しい点もあるが、多少苦勞してでも散策したいという気持ちはあると思う。
- ・温泉街だけでなく、地区全体を見渡して住宅地にも情緒が無いと感じた。時間は30年かかるかもしれないが、景観法も活用しながら住宅を含めた景観整備に努めて頂きたい。

#### その他(ソフトハード連携)

- ・回遊性確保という点では、この前に山梨県の西湖に行ったのだが、新宿バスターミナルの待合室にビンゴ形式のゲームが置いてあり、旅先で歩き回る工夫があった。スタンプラリーなどを行えば客も出てくれるのではないか。
  - ・栃木はテーマパークが広域に点在している。今年のJRとの乗り入れで電車での来客が増え、鬼怒川温泉駅を拠点とする、車ではない客が増えると予想されるが、何か対応は考えているか。
- 必要性は認識しているが具体的なプランは今後検討していきたい。

#### 4) 地元の取り組み状況について

- ・地域の動きは進んでいるという事で良いと思うが、活動中での成果、限界や課題を教えて欲しい。
- イベントに関しては、参加する人が限定されてどのイベントでもいつも一緒にの人が汗をかいている。また、許認可が難しく企画を持っていてもなかなか前に進まない。
- 飲食店に関しては、各種の飲食店組合から参加したい人の情報を集めたが反応が悪く、一軒一軒訪ねて説得した。インターネットに広告を出すメリットが理解されていないのではないか。

#### 許認可

- ・許認可については、やりたい事を具体化して相談してもらえれば、結構できる事も多い。だからこそプロジェクトチームも組んでいるので相談して欲しい。

#### 参加者の限定性

- ・成功事例には、数人だけの前向きなとりくみが広がっていく瞬間があると思うのだが、他の地域ではどのようなきっかけになっているのだろうか。
- 頑張っている人が少なくて浮いてしまうのはどこの地域でも一緒。少人数は仕方がないが頑張ってもらいたい、そこは応援する。できた時には笑い話になる。成功した所は皆そのようなものだと思う。

→地域の活性は経済的な自立と考えているが、成功するところは旅館やイベントが評価されて客が来る。消費者が評価して長続きしたものについては誰も文句言えず、認めざるを得ない。

#### 観光としての積極的な魅力付け

- ・健康や癒しは良いが、それだけでは客は来ない。やはり食べ物など色々な欲求を満たす所に来る。その良さをどう表現するか、ビジネスと一緒に、何回も試行錯誤しながら消費者に受けるものを徹底的に研究する必要がある。静岡では6年かけて小学校教育も含めて長期的に健康と癒しづくりを行っている。伊勢でもバリアフリーをやっているがそれは2次的要素。
- ・四万温泉はもともと首都圏の20温泉で最下位だった。43軒の旅館が協調いきなり協調するのは無理だが、一部が中心になって成果を上げていくと、周りもだんだん引きずられていく。館山寺の地産地消も、天然トラフグをジャパンプランドに申請して、自分たちで料理人にさばいてもらって、2年か3年がかりで完売した。何かにこだわって希少価値を売り込むべき。赤倉温泉では青年部が中心にやっているが、客の声があれば評価は非常に高くなる。

### 5) その他

#### 情報発信

- ・4月以降に成果を上げるためにはPRも必要。地元の人が考えて行動したのであれば、誰に向けてどういうイベントや情報発信ができるかを考えると良くなる。その様な場を役場や県の協力で作るとスムーズに進む。うちの店は美味しいと言っても人は来ないが、こういう由来でこういうものがあるという情報があると人は来る。よその声やプロの声を入れても良いかと思う。
- ・飲食店情報を誰に向けるか。飲食や連泊の顧客は高齢者が多いと思うが、高齢者がインターネットを使うだろうか。高齢者ではなくても自宅でそれを見てプリントアウトしてくるだろうか。旅館での配布や、旅館でインターネットを見られるなど、発信するメディアの工夫が考えられる。
- ・今後、新宿の乗り入れ等もあるので視野に入れてはどうか。

#### タクシー迎車回送料金

- ・スリップ制という料金体系の問題で、温泉駅から公園駅からでは、最大500円くらいの差が出る。観光協会、観光課、流感組合、施設協会まで全てにクレームが出る。固定料金であれば事前に客に説明できるのだが答えられないのが現実で、それは非常に客の立場にたっていない。運輸局からの行政指導との話だが、そうではないという事であれば、我々でタクシー会社と再度交渉もできる。

→迎車回送料金は、簡単に言えば送迎に対する運転手の拘束に対しての料金である。今は流動的な部分もあり、事業者の申請によって迎車回送料金をやめる事も可能である。行政指導はしていない。

→一方でタクシーは日本で有数の最低賃金業種であり、労働者の生活を守る別の行政目的として、経営者側に運転者最低賃金を守るように言っているが、方法までは指導していないので迎車料金があつたりなかったりする。全国的には競争がある方が良い面もあるが観光客にはこのような問題もある。すぐ答えは出せない難しい問題だが。

・鬼怒川温泉では鬼怒川タクシーがほぼ独占、あとは日光交通の2つの会社だけなので。仮にこの2つのタクシーだけでも何とかできれば明確に打ち出せる。

→そうであれば考えようはあるか。公正取引委員会との関係もあるので検討は必要だが。

#### その他

・地産地消の話で、シイタケとかチタケ、ナメタケなど、キノコ類が豊富との事なので、健康ブームもあるので進めて頂くと良いと思う。

・温泉表示の話は記者などに聞かれると思うので話があった方が良い。安心感が得られる事が重要。

→町としても、利用者にとってどういう表示方法が良いか関係者と協議して発表できればと思う。

### 6) 総括

藤崎委員

・事務局、行政、事業主体、地域のどこに質問すれば良いのか少しこんがらかっている。次回の会議までに4月以降どう動くのか見られるものにした。地元で役立つものとなって欲しいし、ノウハウは提供するので、誰が主体かという事を明確化にして欲しい。

安島委員長

・すぐ対応できる事も、長期的に考えていく必要がある事もあるが、温泉地の魅力を大きく向上させていかなければいけない。人が街に出るためには今のものでは大丈夫かと少し思う。長期・中期・短期を分けること、どのような人をターゲットにしてどのように伝えるのかなど、既存調査やアンケートをにらんで、強力に人を外に出すプランをもう一度提示して欲しい。

### 5. 閉会

作道観光課長

・熱心な議論をありがとうございました。閉会とさせていただきます。

以上、

## 4) 藤原町国土施策創発調査 第2回景観計画作業部会 会議記録

日時:2005年2月10日(木) 14:00～16:30

場所:藤原町総合文化会館

出席:別紙

### 1. 開会

沼尾室長(略)

### 2. あいさつ

筒井部会長

- ・本日は第2回景観計画作業部会にお集まりいただきありがとうございます。21日の会議に向けて細かい事柄を決めていくための会議ですので、忌憚のないご意見を伺い、有意義な会としたいと思います。よろしくお願いします。

宮脇顧問

- ・部会のアドバイザーとして参加させていただきます。委員会まで間がないが、中心市街地の活性化に役立てる筋をつくりたい。景勝地の景観計画として、どういう景観が一番価値があるのか、どこを守っていくのか、限られた時間であるが素案をまとめられればと思う。

堀川収入役

- ・お忙しい中出席をありがとうございます。町として深刻な状況ですが、大いに期待をしています。よろしくお願いします。

### 3. 議事

udc八木、(株)都市計画設計研究所磯野(以下詳細略、資料参照)

- ・21日委員会で提言をまとめるため、部会ではある機軸を決め、今後のまちづくりに発展する方針や施策の提案が必要である。景観は一朝一夕でできるものではなく、各関係活動主体の基本的な計画づくりが必要。皆の要望や意見を今後の活動につながる提案に結びつけたい。

#### 0) アンケートについて

- ・宿泊客アンケート中間報告(個人客中心傾向、良かったこと、期待はずれだったこと、街に出た人・目的、出ない理由、行ってみたい温泉、年齢による傾向を説明、詳細略)
- ・経営者アンケート(略)

#### 1) まちづくりのランドデザインについて

- ・まちづくり(課題、方向性(核・路・地区・ゾーン)、ソフトハードの連係、推進体制)、遊休地・遊休施設活用、景観誘導

#### 2) 温泉街再生のモデルスタディについて

- ・地区を抽出して細かく検討を行い、具体的な検討を行うためにモデルスタディを行う。

- ・旧温泉街地区(西側)の抽出、現況分析、方針、プロジェクト・事業について説明(詳細略)。

## 4. 議論

### 1) 景観計画について

#### (1) ストーリーの整合性

- ・景観計画のテーマとアンケートがつながっている必要がある。宿泊客アンケートでは、行ってみたい温泉に「風情」があり、鬼怒川温泉で良かった所は「自然豊かで風光明媚」とある。街の風情はホテル旅館などが中心になって行う必要がある、景観阻害要因の除去や鬼怒川の整備、自然保全など大きな考え方は公共リードで民間が協力するのではないか。(宮脇)
  - ・わかりやすいようにフローを出すと、説明が弱かったものが見えてくる。歩くにしても買い物、散歩、自然散策…色々ある。その中で路をパタン化してまとめれば、良い提案もあるのではないか。今はそれが表面に出ていない。(入野)
- 資料の整合性を高めて欲しい。(筒井)

#### (2) まちなかの観光施設について

- ・鬼怒川温泉で良かった事で「観光施設が近くにある」が低いがどういう事であろうか。(筒井)
- 設問は温泉地内の施設について尋ねた結果であり、現状を正しく評価された結果と思う。(磯野)
- ・夕飯までの間にちょっと行く観光施設へのニーズはある。テーマパークは離れていて、くろがね橋やTEPCO、ロープウェイ、吊り橋などしか教えられない。増える事を期待している。(大綱)

#### (3) 鬼怒川温泉の観光の目玉・風情について

- ・非常に難しい話であるし、実現性で考えたのだと思うが、夢がないように思える。(筒井)
  - ・それを目的として鬼怒川に来るような核は考えられないか、宿泊だけで考えてはだめ。(駅前の風呂、寄席式、美術館、相撲など、駅前の教会…等のアイデア)(佐藤)
  - ・鬼怒川に来たらそれを見ずには帰れないというようなものがあるとありがたい。(大綱)
- 単なるアイデアは地元でない我々からは言いにくい。こういう拠点的な施設が必要とすればこの場所が望ましいという事は言えるが、何をという事は地元当事者で話し合っ欲しい。(磯野)
- ・川べりなどはあえて手を加えないで建物を壊すだけで十分な自然と岩がある、一寸した茶屋程度で良い。これだけの溪谷はそうそう無い。後は客が来て飽きずに楽しめるものが必要。素通り客を止める目玉が何か必要。(まちなかの美術館等のアイデア)(佐藤)
- 川沿いのイメージは我々も同様で、林の中に施設がぽつんとあるというイメージである。(磯野)
- ・具体的に何かを決めつけるより、インパクトが大事という事を引継ぎながら、時間をかけて提案していく事が重要ではないか。客は、温泉としての「風情」と、鬼怒川という風光明媚な「自然景観」を求めている。風情がうまくできれば客は来る。しかし風情を1ヶ月で決めることは不可能。それを具体的に

考えていく事を景観計画で提案するのが良いのではないか。(河合)

- ・風光明媚という事から鬼怒川に隣接した場所を考えると、旅館跡地対策が本当に重要であれば、資金の話は外しておいてでも議論が必要。川から離れた場所ならば駐車場やサービス転用も考え得る。議論の柱を構築する必要がある。地元の人が暖めてきたアイデアがあれば別だが、短期間で実現が可能なアイデアというものは、事例紹介程度しかできるものではない。(河合)
- ・「目玉」というテーマについては、鬼怒川の原点に立ち返る事が非常に重要。その上で物事を構想していくのだと思う。具体のイベントや施設が求められるのはわかるが、これから一緒に構想していく方が良いと思う。(宮脇)
- ・現況把握では、ハードに関してはかなり調べているが、歴史文化などソフト面で掘り下げが抜けているのではないか。それを提案に加えれば風情も浮かび上がってくるのではないか。(入野)
- ・核とはつまるところイメージで、地元の人たちがこれからつくっていくものと思う。草津の湯畑、伊香保の階段…鬼怒川では自分もイメージが浮かばない。まず客が何を求めているかを把握しながら、我々と客の協力でだんだんと波紋を大きくしていく。泊まりでなく来客も大切にしながら顧客満足度を高めていくのが鬼怒川再生の本当の近道だと思う。(奥村)

#### (4) 川の活用について

- ・今は魚を釣る場所も無いが、下水道もできて川も綺麗になった。昔は何千人という釣り会員がリーダーで居た。釣り人口は多いのでこれらを取り込む方策も癒しとして良い。(佐藤)
- 良い場所があれば良いのだが。できればある条件を決めて川面に降りられると良いと思う。(磯野)
- ・今はなくなってしまったが、昔、一心館の前はボート乗り場があった。(佐藤)
- ・鬼怒岩橋より先は釣りができる場所はあるのだが、個人所有なのでなかなか入れない。(丸山)

#### (5) アンケートについて

- ・昔は企業の社長が鬼怒川好きで社員を連れて来たが、今は行き先も従業員が決める時代。鬼怒川に来る人が何歳くらいの人が一番多いのかという事もアンケートから見る必要がある。(佐藤)
- ・アンケートの中に色々な答えがあると思う。自然と温泉、それが中心だと思う。変に色々手をかける方法論ではなくて客にとっての満足度というソフト面も非常に重要だと思う。方法論としては、湯気が上がっているという事は、目で見た温泉地という意味では重要ではないか。(大島)
- ・宿泊者対象でたった3日間の実施でもある、年間やった方が良い、時間がかかっても旅館・商店・住民・行政が一体となって、常に改善していく必要がある。今流行っている観光地も、時間をかけてやってきた結果が今出ている。(奥村)

#### (6) 景観整備の実施・費用について

- ・やめたホテルを壊す事は、県や町がやってくれるのか。(佐藤)
- ・現在、まちづくり交付金が町に入っているが、公共施設として整備するのであれば公共施設所有者

が壊すことになる。(村上)

- ・町が壊すにしてもお金はかかる。国の方で再生にあたって特例的措置はないか。(佐藤)
- 現時点でも少々は補助対象となるが、町全体が一枚岩となれば、それが行政を動かす力となるかもしれない。だが、現時点では全額を公共が出せるという状態ではない。(村上)
- ・現時点では民間の持ち物であり、単に民間ホテルが潰れたから公共のお金で壊すというシステムは今の所無い、権利関係の問題もあると思う。公園として位置づけられれば、公共事業で補償費を払って撤去というストーリーは考え得る。(碓氷)
- ・資料2-12に景観法に基づく施策の提案もある。鬼怒川の持っている景観資源の活かし方・作り方を皆が合意形成してプランをつくっていけば、景観形成事業(支援)の適用も考えられる。時間がかかるものなのでここで結論を出すのは難しい。最終的な提案としては、活動を継続的に続けていく事が重要であるという事も盛り込みたい。(八木)
- ・景観法はできたばかりで国も力を入れている。施策が成功すれば全国的に注目されるので認知度も上がる。景観整備は公有地だけではなく民間建物もないとうまくいかない。街が一体としてルールを決めれば公共的な援助も考えられる。海外の街が綺麗なのはそこをうまくやっている。(宮脇)
- ・隣接建物が協力してつくるまちかど核は民間中心のエリアになると思う、そこに公共がどういう立場でサポートができるか、道路・街灯…試しながら探っていく事が重要だと思う。また、鬼怒川の原点はやはり川だと思う、自信を持って実践する事が重要である。(宮脇)

#### (7) 進め方等

- ・今つくろうとしているものは正に昔の鬼怒川の姿である。40年前に鬼怒川が本当の温泉場であった中で色々なものを壊してしまった。ホテルにしても、ホテル旅館自体が癒しの場となるのが本来の姿。昔に戻せば一番良いがそうもいかない、それをどうすれば良いかという事であろう。団体で持っている所はどこもひどい状態、黒川温泉など他の事例を取り入れる必要もある。(佐藤)
- ・3月になって暖かくなったら現地を見て歩くのが良い。本来なら皆で先に鬼怒川を歩くのが良かった。地元の人も解っているようで実は意外に歩いていない。(佐藤)
- ・今までは、乱立はしてもけばけばしい建物はなかったが、今後、外部資本が入ってきた時にはその恐れもある。原点である鬼怒川を守る意識がバブル期以上に重要となり、地元の結束が最終的に鬼怒川温泉再生につながる。今回ここだけは守りたいという鬼怒川の原点は皆と共有したい。(村上)

- ・いくら綺麗な部屋に泊まってもぼろぼろな建物を見たらがっかりする。一柳閣は倒産して5年くらいは放置されていたがおおるりが買って綺麗になった。やはり皆でまとまる事が重要。一方で地域の個性もあるので、たまに皆でどこが狂っているのか話し合うのも良いと思う。(丸山)
- ・旅館組合青年部で月一回鬼怒川の清掃活動を行っている。アンケートと一致したのは、廃業旅館や古看板など景観に合わないものがあるという事。車内の視線と歩行者の視線で見ると、自分たちでも来たくないと思う。景観部会ではそういったできる事からやっていく事が重要。(奥村)
- ・個別の事例に関してはいろいろな意見があるが、エリアアイデンティティをはっきりさせて、住民のコンセンサスを得て進めるという事が今回の結論かと思う。(筒井)

## 2) 各場所について

### (1) 温泉駅周辺地区

- ・温泉駅前地区のライン下り乗り場から河原には、一般の人も降りられるのだろうか。(平井)
- 鬼怒公園開発(株)が借りているので、観光協会などが借りられれば可能性はある。事業者としては一般の人が施設を通っていく事になるので、外に階段をつくるなどは必要であろう。(佐藤)
- ・資料2-P2ではライン下り乗り場をひろば化して河原に降りられる提案も行っている。(平井)

### (2) 旧温泉街地区(モデルスタディ)

#### ◎温泉公園(仮)提案について

- ・温泉公園(仮)も観光の目玉として考えているのか?(筒井)
- モデルスタディエリアの中ではそう考えている。外湯があればそこまで行ってみようと歩く人も増え、店の売り上げも一定は期待できるのではないか。(磯野)
- ・温泉公園のイメージはどのようなものか。(筒井)
- 資料1最終頁にイメージがある。ひろばと温泉施設を設け、斜面を緑化して原景観を修復する。太鼓橋や橋の下をくぐる路が残っているのでそれを活かす。これらを複合させて拠点となるパブリックなスペースをつくりたい。(磯野)
- ・使用許可などの問題は大丈夫か?完全に民有地なのか?(筒井)
- 調べてはいないが、どこかに官民(河川)境界が存在するはずである。(磯野)
- ・その線引きもアバウトなのでやりづらいという話は聞いたことがある。(筒井)
- 川にせり出しているホテルが建て直す場合でも同様である。そこはクリアする必要がある。(磯野)
- ・塩原にもまちづくり交付金を使った温泉公園構想があったと思う、かなり金額がかかっていたようだがそのようなイメージか?(筒井)



→塩原では開湯200年を記念して、廃業施設を町が買い取って足湯などを整備する興行的な拠点だが、この提案はいわゆる外湯の感覚で、外湯に行くことによるそぞろ歩きを狙っているのだと思う。

塩原の場合は施設も足湯などで入浴はできない。溪谷もきつくないので面積も大きい、(村上)

→面積は3900m<sup>2</sup>だが、かなりの部分が傾斜地である。今の躯体を一部残すことも考え得る。(磯野)

→公園と書いてあるが、人が大勢集まるというよりは緑地というイメージである。もしパブリックな施設整備が可能であればエレベーターなどで上下移動も可能かもしれない。(平井)

・外湯が無い事への不満がアンケートにあったが、つくるのはここが一番良いという事か？(筒井)

→川が見える所がよいと思う。徳泉閣跡地もあるがむしろ車対応か。(磯野)

・人が歩き交流しながら景観をつくっていく事が、今回のモデルスタディの意味と思う。外湯が一番良いかは議論して欲しい。水明館は鉄道、国道、急傾斜地が重なっており(旅館としての)建替は難しいと思う。非常に評判も悪く、風光明媚のために自然を復元し、その中に最低限度の施設を設けるという提案であろう。上の方は駐車場という事も考え得る。(村上)

・隣にも廃旅館が続いているがどう考えるか？(筒井)

→1つは、公共的公益的施設として使う事が考えられる。無制限に行うのは不可能なので更地化して売りやすくするのが2つめの考え方。権利関係などでそれも難しくれば暫定的に緑化などを行う事もある。今回はくろがね橋に一番近いという事で水明館を選んだ。もっと駐車場が必要などという議論があれば範囲を広げる検討はできる。(磯野)

→廃旅館などに対しては開発・保全・その中間が考えられる。そのビジョンが大切である。(八木)

→ホテル同士が向かい合っているのはまずいであろうという事もある。基本的には緑地に戻すが、寂しくならないように外湯を提案した。今は容積率が400%もあるので、更地化して容積率を下げる方法も、考え方としてはあり得る。(磯野)

・それは賛成、結局建物をつくりすぎた状況のままでも再利用するのは難しい。一部ダウンゾーニングや景観保護・制限を行い、将来的に安定的に長生きするボリュームとして、周りはそれ以上下がらないというメリハリをつくらないと、全体に影響してしまう。(宮脇)

・守る場所を共有して皆で協力するバランス感覚が重要。川は旅館に塞がれており、現実として2つの橋しか景観ポイントはない、重要なポイントに傾注すべき。昔のように公共事業や旅館ではなく、抑えて更地化・緑化・外湯という方法は有効と思う。(宮脇)

・水明館の場所は河川領域が多く、現実には道路から10m位しか使えないのではないかと。昔は赤松などがあって、自然を復元して一寸した温泉があれば、昔のように最高の場所になる。(佐藤)

・昔はここに駅があって鬼怒川温泉に来た事を感じられる場所であったが、バブル時に各旅館が建て増して川がなくなってしまった。やめた所は解体した方が長い目では良いのではないかと。今、温泉は日本中にあるが、鬼怒川には溪谷があるので第一に活かしたい。線路側の土地で、駐車場や

現在は鬼怒川にない美術館などの活用も考えられないか(文化会館の改装も考え得る)。(佐藤)

### ◎本町通りについて

- ・本町通りの活性化が1番目に来るがインパクトが弱いように思う。人が出るだろうか。(筒井)
- ・まちかど核はどのようなイメージか?そぞろ歩きのためには強力な核が欲しい。(大網)
- ちょっとした核で、ふれあい橋たもとの広場がグレードアップしたようなイメージである。大きいものは水明館跡地で考えていた。(磯野)
- ・本町通りの中に目玉が欲しい、空き店舗活用と行灯だけでは弱いのではないか。(筒井)
- ・まず、そこに温泉街の風情をつくるというテーマを掲げ、共有する事が重要ではないか。(河合)
- ・それは同感である。(宮脇) ※→温泉公園・目玉に関する議論も参照
- ・本町が力をつければ客が公園駅に来てくれる可能性もある。会津戊辰街道はお金がかかっている。温泉街やくろがね橋は、かけるにかけられないのかはわからないが、必要ではないか。(丸山)

### ◎交通について

- ・駐車場がないようだが、外から来た客をどう考えるか?(筒井)
- 現実としてまちなかに恒久的な駐車場は無理であろう。国道側は考えられるが現状はホテル駐車場となっている。暫定駐車場や廃旅館転用なども考えられるが、現状では手詰まりである。(磯野)
- ・資料2-P11「公共施設としての遊休地等の利用」として駐車場は考えられる。中心部でも暫定利用する所、拠点を形成する所がある。交通計画は非常に重要でまちづくりに影響が大きい。(宮脇)
- 検討段階ではシャトルバスなども考えていた、体系的に整理するようにしたい。(磯野)
- ・徳泉閣の跡地利用は今回描いていないのか。(大網)
- そこまでは手を伸ばしていない。道の駅的な施設を設けるというイメージはある。(磯野)
- ・無人駅で良いので、旧鬼怒川温泉駅の場所で乗り降りができるようにならないか。現在はバスであつという間に駅と旅館を結んでしまう。まちに出ればまちなかの楽しみも増えると思う、そぞろ歩きの誘発となるのではないか、リピーターも増えると思う。(大網)
- ・従来の公共事業、特に道路をどう考えるか。高度成長期には中心市街地より周辺に意識が向いてきた。道路と関係する事は多く、公共側の意識が中心市街地に向かないとやはりうまくいかない。公共側にもその様な危機感を持って欲しい。(宮脇)

### (3) 公園駅周辺地区

- ・公園の中に岩風呂があるが、観光地としては捨てられたような所でスギが多くて暗い。行政がサクラ・モミジ・アジサイなどを植えれば癒しの場所となるのではないか。これで福祉ができたなら良いのではないか。自然を残して少し整備をして欲しい。(丸山)

- ・土地の人が良いと思う所に客も来る。あまり立派なものをつくっても却って困る。町のどこでも良いのだが、福祉団体などがピクニックに来るといふ利用も良いのではないか。(丸山)
  - ・その他地区の色々な要望をまとめてきた。(丸山)
- 集めた要望は後で事務局に渡して欲しい。(筒井)

以上

## 5) 藤原町国土施策創発調査 第2回広域交流作業部会 会議記録 (議論整理)

日時:2005年2月17日(木) 14:00～16:30

場所:藤原町総合文化会館

出席:別紙

### 1. 開会

作道藤原町観光課長(詳細略)

### 2. 部会長あいさつ

高橋広域交流部会長

・本日はお忙しい中、第2回広域交流作業部会にお集まり頂きありがとうございます。委員会に向けて当部会の意見をとりまとめてゆきたいと考えておりますので、皆さま忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。

### 3. 事務局あいさつ

堀川収入役(詳細略)

### 4. 資料説明

UDC、都市計画設計研究所(詳細略)

資料1 アンケート調査の概要

宿泊客アンケート

台東区住民アンケート

旅館ホテル経営者アンケート

資料2 集客促進の方針について

資料3 国土施策創発調査検討委員会提言の骨子(案)(現時点では未完)

### 5. 議事

#### 1) アンケート調査について

#### 2) 集客促進の方針について

(詳細略、討議概要は次ページ以降に記載)

### 6. その他

(詳細略)

### 7. 閉会

※議論内容は次頁以降参照

## (討議概要)

### 1. 第3回検討委員会に向けて

- ・2月17日の検討委員会に当部会のまとめはどのような形で報告されるのか(高橋部会長)  
→資料3「国土施策創発調査検討委員会提言の骨子(案)」のP6「温泉街再整備の方針」(現状では略)にまとめる予定である(事務局:都市研)

### 2. アンケート調査について

- ・アンケートの回収率は、当初の見込と比較してどうであったか(高橋部会長)  
→宿泊客は望外の回収率であった。台東区は多少低めだったが、統計的に問題はなさそうである。  
経営者の方々にはもう少しご協力を頂きたかった(事務局:都市研)
- ・経営者の方々にあまりご協力頂けなかったのは、どのような理由からだろうか(高橋部会長)  
→意識改革が必要ではないかと考えている(事務局:町)
- ・アンケートの結果は、ほぼ予測された結果ではないかと思う(県観光交流課:高久氏)
- ・アンケートは1月末の実施だが、今後も春夏秋にも実施すべきではないか。季節ごとに観光客の目的は異なり、総合的な年間の集計ができれば効果的である(商工会:猪瀬氏)
- ・現実的にハードへの投資が難しいのなら割り切ってしまうのもよいのではないか。経営者の回答率が低いのが気になっており、鬼怒川の問題を地域全体で考えてゆくためには経営者間の柵を取り払い、相互に協力しあう必要があるように思う(県交通対策課:荒川氏)
- ・経営者の意識改革は都市再生マネージャーからも指摘されている課題である。リピーターを獲得する際にはおもてなし(ソフト面の強化)が重要である(高橋部会長)
- ・宿泊事業者は「お客さまのデータ」をもっており、これば強みである。例えばリピーターがどのくらい来ているかなどは、宿泊施設事業者が知っているはずである。その方々の回答率の低さは意識の問題だと思う。経営者アンケートで「どのくらいリピート客がいますか」という質問をする方法もあったと思うが、経営者の持っているデータを提供してもらうことも必要ではないか(日光市:大橋氏)
- ・今回のアンケート調査で、どの程度リピート客がいるかはわからないのか(高橋部会長)  
→そういった設問を設けていないのではっきりとはわからないが、アンケートのフリーアンサー(鬼怒川温泉への期待と要望)にリピート客のコメントが多いことから、それを整理することとしたい(事務局:都市研)

### 3. 集客促進の方策について

#### (リピーターについて)

- ・集客促進の方向について「首都圏からの交通利便性が高く、リピーターが多い」のであれば、新規顧客の獲得より、リピーターにもう一度来てもらうことの方が重要ではないか(県交通対策課:荒川氏)
- ・リピーターは温泉に魅力を感じ、期待している。今年3月から会津Mt.エクスプレスが運行され、来年

3月からはJRと東武の相互乗り入れがはじまる状況を踏まえれば、首都圏から手軽に行くことが出来る、リピートできることをアピールすることが重要だと思うが、なぜ「新規顧客の獲得」を方針に挙げているのか(県交通対策課:荒川氏)

→鬼怒川温泉のリピーターには高齢者が多いため、将来的に安定的な集客をはかるための戦略としては、新規顧客の開拓が重要と考えている(事務局:町)

・リピーターは、何度も鬼怒川温泉に行く理由を周囲の人にアピールしてくれる存在だと思う。鬼怒川温泉の再生策としては、目先の新規顧客の獲得に力を注ぐのと、既成要素を充実させてリピーターの満足度を上げるのと、どちらが効果的だろうか(県交通対策課:荒川氏)

・集客のターゲットとして、1泊2日の家族連れや日帰り客をどうつかまえるのか。外国人はよほどの日本通でなければ、温泉を楽しむことは難しい。鬼怒川温泉としてどのような方向性を追求すべきなのか、もっと議論が必要なのではないかと(県交通対策課:荒川氏)

・鬼怒川は実際にリピーターが多く、東武ワールド・スクウェアのリピート率は35%である。リピーターを増やす一方、新規顧客を獲得するのが経営の基本である(観光施設協会:中村氏)

・集客のターゲットだが、リピーターの確保に重点をおくべきか、新規顧客の開拓に重点を置くべきか、皆さんの意見はどうか。鬼怒川温泉のリピート率は高いのか(高橋部会長)

→リピート率の高さをはっきり示すデータを入手していないが、リピート率は高いと考えられる(事務局:都市研)

・この場合「リピーター」のとらえ方が重要であると思う。年に何回も来る人ばかりではなく、小さい頃に来たことがあるだけという人もかなりいる。しかし、集客を考える際にはそういう人々を大切にしなければならない(日光市:大橋氏)

・リピーターについては家族が中心になっていると思うが、お客さまとの触れあいを大切にすべきだと思う。また観光地特有の飲食や物販、温泉街が現状では不足していると考えられることから、今後対策に取り組む必要がある(商工会:猪瀬氏)

#### (交通手段の充実について)

・3月1日から運行する会津Mt.エクスプレスには、東武電鉄としても期待している。東京から会津に向かう観光ルートに鬼怒川を絡め、観光拠点として考えている(東武電鉄:綾部氏)

・スペーシアについても日光行き/鬼怒川温泉行きのバランスの見直しや、JRとの接続を踏まえた栃木駅停車、様々な旅行パックの開発など、差別化を図っている(東武電鉄:綾部氏)

・鬼怒川や日光へ行くお客さまは「〇〇へ行く」という旅行目的がまずあり、その上で旅行手段を選択する傾向にあるので、「(車でなく)鉄道(東武)で行く」と選ばれる手段でありたいと考えている(東武電鉄:綾部氏)

・実際に、日光や鬼怒川への観光客は鉄道利用者が多い。日光の集客を考える点でも、今後ますます広域観光が重要だと考えている。その意味で現在、日光ー鬼怒川のバス路線がないことは広域

- 観光の障害になっていると思う。観光地とタイアップしたルート開発が必要である(日光市:大橋氏)
- ・日光ー鬼怒川間のバス路線は、旅館と提携して日に2本走らせているが、平日と休日の差が大きく、経営的には厳しい状況である。デマンド方式を取り入れていきたいと考えており、試験的に行っているが、一方で課題も多い。今後、利用客が増加すれば路線をつくりたいと考えている(東武ダイヤルバス:内藤氏)
  - ・バス路線の話に関連して、事務局は日光鬼怒川間の規制緩和を国土交通省に提言することは考えていないのか(高橋部会長)
- 広域観光ルートの確立や都市間のアクセス強化は重要課題と認識しており、現状では難しい点も多いが、積極的に進めていきたいと考えている(事務局:町)
- ・日光、鬼怒川、栗山のアクセス強化は重要であり、部会の意見と認識してほしい(高橋部会長)
  - ・効率を考えた域内交通(輸送)手段の整備も検討する必要があるのではないかと(県観光交流課:高久氏)
  - ・行楽シーズンの日光いろは坂の混雑で予約していた電車にお客さまが遅れる、といったことも起きているが、時期により混雑の状況が大きく異なり、混雑期に合わせて対策をすると、オフシーズンには人員が余ってしまう。試行錯誤を重ねて効率化を図っているが、年間を通じてスムーズな対応をするのは難しい点が多い(東武電鉄:綾部氏)
  - ・鉄道の時間的な接続をスムーズにすることは可能ではないか。例えば、接続の列車の到着が遅れた場合に少し待つといったことはどうか(県観光交流課:高久氏)
  - ・ダイヤ設定通りに運行することが基本だが、現状でも相互に連絡を取り合って工夫している(東武電鉄:綾部氏)
  - ・日光地区の混雑は、時期的にはどうしようもない場合もあるが、鬼怒川と日光、鬼怒川と日光の移動を、お客さまの利便性を考えてスムーズにすることは重要である(県観光交流課:高久氏)
  - ・会津地方は大きな集客力を持っている。現在、高速バスを利用している観光客に東武線を利用してもらえないかと考えている(県交通対策課:荒川氏)
  - ・人が広域を動く魅力は「周遊」であり、同じ道を通って帰るのは面白くない。観光客の希望を前提に広域ルートを考えてはどうか。関連して福島空港ツアーはどうなっているか(県交通対策課:荒川氏)
- 現在、毎週末に福島空港から日光ー鬼怒川地域への高速バスが運行されている。バスの広域輸送の可能性を検討するモデルツアーは、今週末の土曜日から月曜日にかけて実施予定で、次の日曜日に参加者ヒアリングを行う予定である。ツアーの成果等は、可能な範囲で委員会資料に取り入れてゆきたいと考えている(事務局:UDC)

#### (自然や景観の保全について)

- ・温泉だけ、テーマパークだけでもダメで、重要なのは自然だが、自然を生かす方法は難しく、また整

備費用も必要である。このような経済情勢で、同じようなことを同じような会合で再三やっている気がしており、実際に早く一步を踏み出すことが重要だと考えている(観光施設協会:中村氏)

- ・自然環境の保全と景観誘導について、鬼怒川は景観、ことに渓谷の景観が重要だと思う。しかし現在、渓谷には多くのホテルや旅館が建ち並んでおり、例えば鬼怒川の上流部などを、保全地区に決めてはどうか。日光もこれからの観光を考える上では自然(景観)が重要と考えており、去る1月に日光市は景観形成団体になった。自然(景観)を観光資源として利用して集客を図る場合には、活用(利用)する場所と保全する場所を分けることが大切である。日光市の場合は、奥日光を保全地域としている(日光市:大橋氏)
- ・同様に湯西川や栗山も利活用する場所と保全する場所を決めれば、自然や景観を重視した地区の大きなループが出来る。この地域の観光の基本は日帰りあるいは1泊だが、それを2泊一にしてゆくためには自治体(観光地)ごとに集客を考えるのではなく、他地区の観光資源とタイアップしたルート開発が必要ではないか(日光市:大橋氏)

#### (インバウンドについて)

- ・新規顧客として外国人を考えた場合、彼らが泊まれる宿かどうかが問題になる。施設を改善する場合は整備資金が必要であり、そのような制度融資を考えてもらう必要があるのではないかと。例えばインバウンドのためといったような、目的のある施設整備費補助などの制度融資が必要であり、現在日光市はそれを提案中である。共同歩調で提案してもらえればと考えている(日光市:大橋氏)
- ・外国人、例えば中国人は生活習慣の違いで「一部屋に4人」などという宿泊形態はとらない。せいぜい一部屋に2人である。需要はあるので施設の改善等は行っていかねばならないが、今の40億円はそういうことに使えるようにはなっていない。例えば、外国人向けの標識も現状では整備できない(観光施設協会:中村氏)
- ・外国人に対しては、セールスの面から考えても、鬼怒川・川治・日光は「広域」でなく一体と考えて宣伝していくべきではないか。その際、重要なのは移動の交通手段(二次交通)である。人は足がないと動かないので、その整備を充実させるべきである。そのための費用は、地域全体の観光費用(施設利用費、宿泊費等)に内包させてはどうか(観光施設協会:中村氏)
- ・現在、商工会で外国人観光客受け入れ協議会を行っており、中国語や韓国語の同時通訳サービスを栃木ネットとの連携で実現させた。今後、藤原町が外国人観光客の受け入れを検討する際には、このような同時通訳サービスの導入も含めると効果が上がるのではないかと(商工会:猪瀬氏)
- ・外国人も集客のターゲットとして考えてゆくべきだろうか(事務局:UDC)
- 国もインバウンドを施策として進めていることから、当然入れるべきではないかと(観光施設協会:中村氏)
- 必要性は十分あるように思う(商工会:猪瀬氏)
- ・外国人を観光客として集客する場合は、周辺の観光地との連携が重要である。現在、国土交通省で



は外国人向けサインのあり方などを検討しており、各地の観光地でも同様の動きや研究が盛んに行われている。サインなどは周辺の観光地で統一されなければならないので、情報の交流や連携が必要である。我々も皆さんの意見や要望を国に提案していきたい(事務局:UDC)

- ・4カ国語標識は、今後も県主導で行われる予定である。現在、外国人受け入れ可能な市町村のみで「国際観光推進協議会」を行っている、外国人観光客の誘致に消極的な市町村もある(日光市:大橋氏)
- ・国が方針を作っても、実際に整備するのは地方自治体であり、自治体の財政負担は非常に厳しいという現実がある。また、県の屋外広告物条例で標識等の新規掲示が出来ないといった問題も生じている。標識等の設置は、インバウンド事業として国土交通省直営でないと実現できないのではないかと(大橋氏)
- ・観光立国が政府の方針であり、国土交通省も外国人向けのパンフレットの制作や標識の設置の検討を始めている。しかし省庁横断的な事業なので、現在はまだ調整している段階だが、いずれ自治体レベルまで事業が進んでくると考えられるので、現時点での問題点の報告には意味があると考えている(事務局:UDC)
- ・東武鉄道もインバウンド対策を行っており、外国人向けのフリーチケットを発売したり、ロッカーやトイレに4カ国語表記を実施したりしている。今後はエリア全体でどうするかが課題である(東武電鉄:綾部氏)

#### (広報戦略について)

- ・現在、東武の新宿乗り入れを踏まえて、東京西南部への宣伝活動を強化する予定である(東武電鉄:綾部氏)
- ・固定客(リピーター)の確保は集客の基本だが、圏域人口が多く、鬼怒川の顧客が少ない東京西南部地域へのセールスは正解だと思う。新たな資源開発には金も時間もかかることから、現状の資源を生かして、セールスに力を入れることが重要である(県観光交流課:高久氏)
- ・日光や鬼怒川の顧客はやはり首都圏在住者である。現状では埼玉からの顧客が多いが、今後は神奈川や千葉を開拓すべきだと思う。先日の東武の田園都市線乗り入れを踏まえて、日光市と藤原町などと共同でPRを行ったが、そのようなエリア戦略が重要と考える(日光市:大橋氏)
- ・すばらしいアクセスルートをつくっても知ってもらわなければ意味がないので、エージェントを通じて広報戦略を実施することが大切である(県観光交流課:高久氏)

#### (その他)

- ・良くできたレポートだが、ここで提案されている施策をどのくらいの速度で実現するのが問題である(観光施設協会:中村氏)
- ・他の温泉との比較の中で、鬼怒川温泉のポジショニングを考えるべきではないか。(県観光交流課:高久氏)

- ・隣接する観光施設との連携が重要であり、今後合併が実施されたとしても内部で連携は必要である  
(商工会:猪瀬氏)
- ・栃木県知事も「県の60分構想」を公約にしているが、移動時間の短縮だけでなく、県としても広域的な交流をトータルで議論していこうとしている。(県交通対策課:荒川氏)
- ・広域交流の仕組みづくりを協議する場が必要ではないか(県観光交流課:高久氏)

以上、

## 6) 第3回藤原町国土施策創発調査検討委員会 会議記録

日時:2005年2月21日(月) 14:00～

場所:藤原町総合文化会館

出席:別紙

### 1. 開会

作道観光課長

・ただいまから第3回検討委員会を開催させていただきます。

### 2. あいさつ

安島委員長

・今回は最終回となります。春めいたせいかお客さんも多く駅前もにぎわっています。こういう状況が続けば良いですが、大きい温泉地を巡る課題は多く、一筋縄ではいかない。なぜ客が減少しているのか、的確な手をうたなければならない。かなり大きな改革・整理となる。時間のかかるものもあると思う。最終回なので忌憚のない意見をお願いしたい。再生に向かえるよう。

八木澤町長

・本日は検討委員会開催にあたり、各委員の皆様にご挨拶を申し上げます。訪れる観光客の数は減少して大変きびしい状況です。国土施策創発調査として選定を得た事はありがたいことと思う。広域交流、景観構築の方策を検討し、鬼怒川温泉再生の方策を検討していく国土施策創発調査の結果として、同様の問題を抱える全国の観光地の、先導的な事例となるように議論していただきたいと思う。

### 3. 資料説明

udc八木、(株)都市計画設計研究所磯野

・今回の資料はポイントを絞って編集している。(詳細略、資料参照)

資料1:フィールドワークの概要報告

- (1) 宿泊客アンケート
- (2) 台東区アンケート
- (3) 経営者アンケート
- (3) 福島空港利用モニターツアー
- (4) 空店舗活用社会実験

資料2:委員会提言の骨子(案)

## 4. 討議

### 1) アンケートについて

- ・地域再生の一環として永久的なアンケート調査を実施して、常時情報を把握する事が必要かと思う。コンピューターなどを使って自動的にとれるようにしてはどうか。(筒井)
- ・アンケート個別の項目については対応できるのではないか。(塩生)
- ・経営者アンケートで回収率が半分未満というのは、どの様な感じだったのか。今後の設備投資の予定42%とあるが、どのような投資だろうか。今後の動きの契機となるのではないか。(廣江)
- ・アンケート42%の回答率については、今までに何度も同じような事をやっているからではないか。ではそのために何をすべきかのアドバイス、サポートを欲しい。地元には地域再生のノウハウがない。まちとして何をすべきかという場合に、何をすべきかもわからない状況である。(筒井)
- ・年代別クロス集計アンケートだが、今後のターゲットとして例えば団塊の世代を狙うのであれば、フォローアップ調査が必要ではないか。(陣内)

### 2) 駅前整備について

- ・平成17年度から駅前広場整備を行う。イベント広場があるが、そこでどんなイベントが適しているだろうか。自分達に見えないが素晴らしいものはたくさんあると思う。現実にどういう形が温泉地として本来的に必要だろうか。(塩生)
- ・まちづくり交付金の担当をしているが、最初、なぜここでイベントをやるのかと聞いた。湯けむりはメンテナンス費用もかかる。樹木があるなど、ここにしかない自然を体験できる方が良いのではないか。建築物修景についても議論した方が良いのではないか。行政も資金を投入するので民間も工夫できないか。提案では様々な工夫…で終わっているが、もっと議論があって良い。(東)
- ・観光地づくり委員会では、温泉に足を運んで頂くために客の求めるものを考え、その1つが駅前広場だった。現在は、都会から来て降りた瞬間や帰る時に、良かったという駅前ではない。4年間かけて駅前に1点集中で議論した。確かに樹木の考え方は何か起こそうという声もあるが、外から見た鬼怒川は自然をやはり求められのにどうしても都心イメージが出てしまう。そういう状況の中で、長期的に鬼怒川に来てもらうための支援・指導が求められている。(塩生)
- ・駅前広場では悩ましい所もある。滝や湯けむりなどは後のコストがかかる、福祉癒しという点では緑の方が良いという事もある。文化会館についても、降りてすぐの景観としてこれが良いのか、町と県で話し合っており、まち交などによる景観改修を考えている。歩行者を誘導するサイン情報はまだ乏しい。隠れた名所などを皆で調べたり、歩く目線で考えた情報提供を地元で考えていく中で、それは公共施設として整備できると思う。金をかけなくても有効な手段は沢山ある。(村上)
- ・まち交で4割の支援という事だが、6割が町負担となる。文化会館を壊すと大きな資金となる。町の厳しい財政状況の中で可能か。(塩生)
- ・大規模改修ではなく、街並み改修と情報発信機能導入を検討している。まち交の残りの部分につい

ても、現状なんらかの方策を県でも検討したいと考えている。(村上)

- ・プライオリティとして外湯が先ではないかという話はそう思うが、駅前整備は委員会で何年もかけて実現した事業である。くろがね橋整備では8億円ほどの事業費がかかるとの事だが、5億や10億使えるのであればとっくにやっていた。市町村合併の行方もわからない中で、単独でそれだけの出費は不可能であり、ぎりぎりの計算の中で行った結果である。(筒井)
- ・なぜ駅構内に案内機能をつくらないのか、駅の方が良い。(安島)
- ・どちらにするかは現在検討中、市町村合併等による施設再編の中での活用も考えている。(村上)
- ・案内施設も大事だが、それは鬼怒川温泉そのものの魅力を高めていない。なぜ共同湯や湯巡り、廃旅館を壊すことを検討しないのか。まちを歩くには、食事や買い物、イベントを見るなど外に出る必然性をつくる必要がある。それをせずに駅前整備をしても客は来ない。(安島)
- ・駅前整備に合わせて駅改修も考えている。東武の案内施設もあるので(案内所の駅内設置は)単体では難しい、融合的な施設は考え得る。駅中に設置する意向であれば早急に話を欲しい。(綾部)
- ・施設よりサービスが先に必要。地図を買おうと思ったらポスターみたいで有料だった、これでまちあるきが促進されるだろうか。(安島)
- ・看板の話や、東武鉄道の協力など、駅に限って言えば、動かせる事はある。駅前整備計画では観光案内所があるが、現計画では案内所が眺望をふさいでいる。地元で調整された案とは言え、位置や方向、共同化など、その都度出た意見に合わせて微修正は必要ではないか。(宮脇)

### 3) 廃旅館対策について

- ・地元民間ができる事、町ができる事、国・県ができる事…色々あると思う。P3に廃旅館の問題があるが、国や県が更地にしてもらえるのか。(塩生)
- ・一旦買い取り主体をつくって権利等を整理した上で売却する、都市機構の土地有効利用事業などを拡大したような施策ができないか、という提案をP27で行っている。(磯野)
- ・カーテンを開けたらお化けやしき…では歩いて欲しいとは言えない。帰ってから気持ち悪かったと言われてしまう。最優先としてそこに向かうのも一つの方法かと思う。(塩生)
- ・人が外に出るためには避けて通れない問題だが、どこに問題点があつて何をしなければいけないかをここでは明らかにして、継続して議論していく事が必要。(安島)
- ・ここで答えを出せと言うのは酷かもしれないが、検討委員会ができたことによって少し明るさが出てくると良いと思う。(塩生)

### 4) 外国人対策について

- ・まず、駅前に看板(英語や中国語、ハングルなど)をつけて欲しい、これは国と県の協力がなくてはできない。まず簡単な事からはじめたい。(高橋)
- ・私はあまり賛成ではない、木を植えるなりもっと環境を良くする事が必要ではないか。駅から降りた時

にどこに案内を求めたらよいのか、ユーザーの立場にたった整備が必要だと思う。(安島)

- ・ターゲットとしてインバンドを掲げている以上、情緒の感覚も日本人と違うのではないか。国策としてインバンドがあるので、鬼怒川温泉がモデルとなる施策があれば聞きたい。(高橋)
- ・国の観光ルネッサンス事業では、外国語看板設置などに40%の支援を受けられる。ただし支援対象となる民間団体が必要。観光協会、商工会議所、その他はわからないが、全般的対策で良いので提案して欲しい。県として先導的なインバンド対策を期待している、協議をより活発に行い、地元を手助けして国に提案したい。(鱒淵)
- ・中国や台湾、韓国から来ている人が日本に来て良くなかった問題なども調査を行っている。ビジットジャパンキャンペーン事務局でその様な問題の情報も持っているはず、それをセミナー等で伝えるだけでもずいぶん対応が違う。

## 5) 総論・進め方等について

- ・2月10日景観検討部会でも、守るべきは風光明媚という事で廃旅館問題は目に付くという議論が出た。最終的に何が良いかまでは決まらなかったが、アンケート等では表に出る施設が足りないという事もある。自然を残しながら施設を整備する議論も出た。鬼怒川温泉として守るべき方向が具体化すれば、国・県・民間として方向が自ずから見えてくるのではないか。宮脇先生からは景観法を活かしていく中で先導的なものができるのではないかという事もあった。議論を続けていけば何らかの方向性は出てくるのではないか。(村上)
- ・景観部会では、まず現状の問題を理解して、アンケートから筋道を出す事が必要との結論だった。大きなイベントで問題をクリアできるという意見もあったが、私は長い施策を着実に進める事が必要と思う。まちの原点を皆で確認するという事では、当たり前で自然が段々食いつぶされて、気づいたら川を見る所は橋しか残っていない、やはり鬼怒川は川のまちで、それを大事にすれば生きながらえるという意見もあった、保全も重要である。景観を阻害しているものは撤去する必要があるという事では、長期的なバランスが重要であり、一部撤去や両側を建物が占めている所の対策や、新しくつくる事も必要という事も議論があった。活性化の核としては、アンケートでは温泉地への風情が求められ、景観として答えていく事が必要。風情の作り方は皆で議論する必要がある。(宮脇)
- ・各部会の方でも問題や、やるべき事が少しずつ明確になっていると思う。献立がきまっていないのに買い物にはいけないので、何をやるかをしっかり認識すれば方向も出てくるだろう。(安島)
- ・創発調査の趣旨として、地域でやっていくという事を考えていきたい。更地化などは、県や国は支援制度はあるが、支援者や買い取り主体など、地元意向が定まらないと支援も難しい。買い取り主体とは誰か、書いてあるだけでは結局動かなくなるのではないか。最優先と認識していくのであれば、検討していく旨を最優先事項として書いて仕上げて欲しい。(廣江)
- ・この委員会是一个のきっかけであるという事であれば一人一人の意識改革が必要。経営者アンケー

トの回収率から見ると、この委員会の認識さえ伝わらない可能性もある。どの様な鬼怒川温泉を目指すのか、どういう問題があるのかを伝えないと、実現につながる再生とならない。(塩生)

- ・意識改革、かかわる人が皆参画していける組織作りが大事ではないか。アンケートで気になる事だが、以前から鬼怒川温泉の課題ははっきりしている(風情、外湯、湯巡り…)。それなのに経営者で湯巡りなどが無いことへの指摘が一人もいない…。(安島)
- ・湯巡りについては、桜通り沿道の8つの旅館で一昨年から無料の湯巡りを実施している。回答に湯巡りの意識がないのは、実際にやっている所もあるからではないか。実際の鬼怒川(全体)は、地理的に湯巡りをするには距離がある、そのため町内自治会とも協力してやってる。経営者が意識がないという事ではないと思う、個々の旅館のアンケートでもそのような声はある。地理的な問題もあるし、個々の旅館で検討している中で問題があるという事もあろう。川治では湯巡り手形など率先してやっているが、鬼怒川でも決して考えていない訳ではない。(奥村)
- ・考えている人は居るのだろうが、実際にアンケートで出てこない。鬼怒川温泉に来た人と台東区民へのアンケート結果を見ると、一致している所としていない所がある。来なかった人の回答が重要であり、風呂の設備、食事、旅館が立派…などが来た人と評価がずいぶんかけ離れている。マイナス要素もフリーアンサーでたくさん出ている。(安島)
- ・鬼怒川の将来を決める場なので、鬼怒川が他の有名温泉に勝てるのかがベンチマーク(基準)となる、一寸した改善より、何が魅力になるかを提言していきたい。課題もはっきりしている。湯巡りに対して、温泉の風情に対して、どう答えるのか。それが今回の結論になると思う。(安島)
- ・計画は非常に良い、できれば成功する。だが、誰が何をすべきかが書いていない。地元も国も両方やる事がある。例えばインバンド対策などは地元では限界があるが、国で調査をしており、地元にどう情報を提供するか。景観形成事業導入についても、他地区では国と一緒に歩み寄って考えている。受け皿組織がないのは問題かもしれないが、国や県も居るので、各々が次にどうするという議論を行えば一歩進むはず。国には予算だけでなくアイデアもあるだろう。地元でも動きはあるようだ、何をどうしたいのか悩んでいるが、4月から動く事はきまっているようだ。(藤崎)
- ・色々な活動ルートを集約するまちづくり組織が必要と感じた。会議形式の限界もあり、互いに情報を知らない。互いに情報を出し合って本当に何がやれるのかという事を議論しないと形にならない可能性がある。議論のプロセスも大事だが、誰が責任を持つかが重要である。(陣内)
- ・景観条例もそうだが、地域の実態を知った上で成果を上げたいという事が国の考えである。ルネッサンス事業では、最高1千万円を国が出すとすれば地元で1千5百万円用意しなくてはいけない。その原資を行政が出すのか、民間企業ではまず出さない。では第3セクターなのかNPOなのか、それ

- も踏まえて考えなければいけないが、問題はそれ以上に、主体者は誰で、ターゲットは誰か、どうしていくかを考えなくてはならない。ばらばらになっている既存の予算をきちんとすれば、それをきちんとやればルネサンス事業の候補にも挙がると思う、その様な指導が必要。
- 例えば集客交流サービス事業というものを経産省でやっているが、事例がなくて困っている。予算の話だけではなく、持っている情報・調査結果は膨大なはずであるが、地域に活かされず調査だけが重なってもったいない。情報をどんどん県や役場、国も出すべき。
  - 活性化協議会的組織も沢山あると思うが、それを整理して、誰が何をいつまでにやるかを整理する必要がある。町もその様なものをつくる必要がある。それだけではだめで、県も積極的に国を動かして、調査やアンケート結果などを活かすようにして欲しい。予算はその延長上だと思う。(藤崎)
  - ホテル旅館が一つでも足湯をつくって回遊してもらえば回遊も実現する。一方で、実際にはホテル旅館は厳しい経営状況で、鬼怒川を再生しようと思いつつも自分の所を何とかしなくてはならない現実がある。県にしても国にしてもその様な事に支援や補助金を考えないでただ建物をつくれれば良いというのは、これからの補助金のあり方ではないと思う。本来の鬼怒川・川治温泉を救うのであれば、客が楽しく連泊してもらおう状況は何かという事で、援助したり支えになって欲しい。(塩生)
  - お金をかけなくてもできる事はある。鬼怒川の魅力を高める事を考えていく必要がある。温泉の温度が高ければ温泉玉子の試みや、人が集まる場所をつくる事、ここの場所らしいもの、客が外に出てくるものを考えてないと、鬼怒川自体の魅力が上がらない、それが基本的な考えである。(安島)
  - 原点に戻ると、創発調査というものは省庁の縦割りをなくして関係をはかり、実績を上げていくものだと思う。今回は単なる調査でそれは良いのだが、4月以降は誰が具体化をするのか。(藤崎)
  - 町が主体にならざるを得ないと思う。(堀川)
  - 現段階で把握しているのは、県職員2名を派遣してもらい地域再生を行っていく。まず行政組織を拡充する。その中で、地域再生計画「自分らしくなれるまち」という事で、鬼怒川・川治をやっていく。具体的には色々あるが、ただし今は、鬼怒川再生のためにはまず集客からはじめるのが使命と思っている。(作道)
  - 集客と言ったが、ここでの議論は裏付けではなく、誰が具体的にどうしていくのかを決める事だと思う。集客対策をしても来年400万人泊まる事はないと思う、時間軸でどこまでできるかを決めていく事が必要。例えば、アンケートによると75%の旅館が個人客対応とある、個人客はネットを見てくると思うが今の観光協会の情報では不満足と思う。そこも直さなくてはならない、調査のターゲットにぶれがあり、なぜぶれているのかを、腰を据えて取り組む必要がある。行政予算の前に、この様な会をたくさんやるべき。(藤崎)
  - どれだけの町民が何をするのか、人選からはじまって、実現に向けた道筋をつくっていく。そこで国



や県がアドバイスできるようにするべき。誰が何をやろうとしているのかが見えてこない、ゼロはいくつあってもゼロである。地域再生プロジェクト委員会を立ち上げる、その人選はこれから考える、その中で役割分担をきちんとやる。その中で国や県に情報提供やアドバイスをして下さいというのであれば解るのだが。(藤崎)

- 町の予算も地域再生の組織があるので、そちらでやっていきたい。それをサポートする地元行動委員みたいなものを新たに組織していきたいと考えている。(作道)
- 大きな問題としては、中心市街地に対する補助ができるのか。国や県が即答できないとしても、再生のためには必要な事であろう。まちなかがこの様になってしまったのは旅館だけの責任ではない、町だけの責任でもない、それぞれの責任をどうとるのか、それをイメージする必要がある。(宮脇)
- 皆試行錯誤しているが先が見えない。足利銀行の問題もあり厳しい状態だが、観光立町である藤原町としては、鬼怒川温泉再生は必須である。今までの結果、数字が出た状況の中で、地域再生委員会として17年度に何をやるのか、国が、県が、町が、地元がどういう役割で、鬼怒川温泉再生のために何ができるのかという具体的な状況がないと、絵に描いた餅の繰り返しになってしまう。これで散会という事ではなく、この会議や、町民、関係者の巻き込みなども入れながら意識改革を行い、鬼怒川温泉再生の3年、5年計画など、とりくんでいく本来の姿を見せる必要がある。(塩生)
- 何をしなくてはいけないか、それに対してどうしたら良いかは資金など色々詰める必要がある。レポートの中では、組織の問題も含めて整理が必要。何が問題かという生の声が聞こえた所で会議が終わりになるのは残念だが、外から来たものとして見ると、内部から見えないものが随分あるように思える。何をしなければいけないかという方向性について助言をしたいと思う。それに対してどういう組織で進めるのかという提言も併せて行う。ぜひ来年度から町を中心に進めていきたいと思う。まちづくりに色々なグループがあって、一所懸命考えて行動しているようだ。熱意が空回りしないよう、まちづくりグループの力が結集できるように考える事も重要と思う。今後どう係われるかは決まっていないが、何か別の機会でも協力させていただきたい。(安島)
- 報告書に該当するような事例などを入れた方がわかりやすい。鬼怒川にかかわると言ったら、「えっ」と言われた、意味はだいたいわかると思うが、大変だという事である。3回で終わらせるという事がそもそも無理、どうせやるなら腰を据えてやった方が良くと思う。(藤崎)
- 問題提起がきちんと書かれていない、遠慮しているのだと思うが。地域がどういう認識なのか、どういう問題があるのかをクリアにする報告書という事を鮮明に出した方が力強い。それに対して明確な答えが実施体制と共に書かれていると良い。まちづくりの成功はメンバーでほぼ決まる。景観もどこまでサポートできるか今後ははっきりしないが、課題はまだ山積みと思う。引き続き、運営できる組織母体がはっきりして、国や県がサポートしていくのが重要と思う。(宮脇)
- やらなくてはいけない事自体ははっきりしていると思うが、それをどうするかという事は非常に難しい

事である。温泉地の魅力をどうしていくかは、はっきり書けると思う、そういう形でまとめさせてもらいたい。短い期間で実際の議論をする回数も少なかった、失礼な事も言って反省しているが、国も県も支援体制をとっているの、これを機会に、今後とも継続して地域再生計画に協力をお願いしたい。レポートはおまかせいただく事になるかと思うが、今のような観点を重視してまとめたい。ご協力ありがとうございました。(安島)

## 6) 個別の各施策について

### コミュニティ交通

- ・P18のコミュニティ交通の拡充は考え方レベルのだと思う。総合的な事はわかるが、東武鉄道としては車両や住民などの関係から、テーマとしては重いと考える。(綾部)
- ・色々な方法はあると思う、バスを温泉地の中で運行している所はある。山中温泉では旅館の主人が交代して運転して無料バスを運行している。(安島)

### 川治温泉

- ・駅前整備に関しては私も疑問を持っている。川治温泉では3500L /分の湧出量があるのだがビジュアル的にそれがわからない。そのためのしかけとして足湯を行政にお願いしているのだがなかなか予算がなく地元としても残念である。行政も忙しいので、地元でお金を捻出していかうかと旅館組合で考えている。旅人の目線で本当に求めているものを一つ一つ考えていく必要がある。川治は旅館組合と自治会、商店会で岩風呂を核としてまちづくりを考えて、色々なビジョンを持っており、10年後の世代をターゲットとして設定している。行政には川治担当の窓口をつくって欲しいと思っている。まだ回答がないが…。川治は置いて行かれるのではないかという不安がある。(船曳)

## 5. 閉会

### 堀川収入役

- ・話にもあったように、これが終わりではなくスタートなのだという事で、また機会をつくってアドバイスを反映していきたいと思う。ありがとうございました。

以上